



# 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算

---

イオン株式会社

2024年10月9日

- 営業収益は4期連続で過去最高、通期予想の10兆円達成に向け順調に進捗
- 営業利益以下の段階利益は減益、第1四半期の前年差を挽回できず

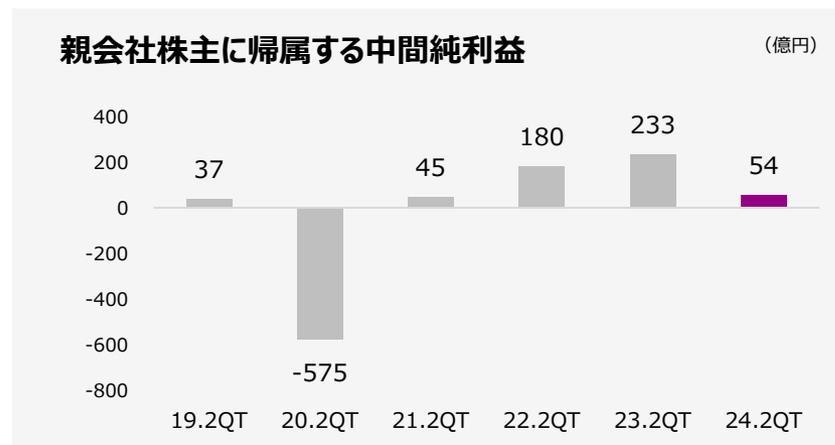
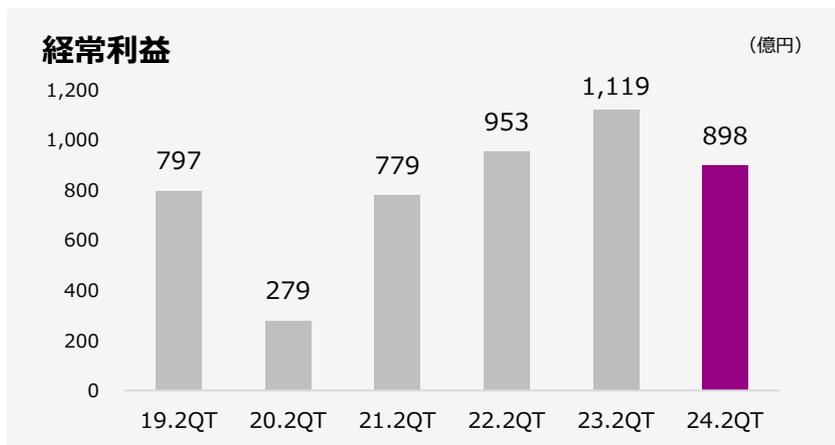
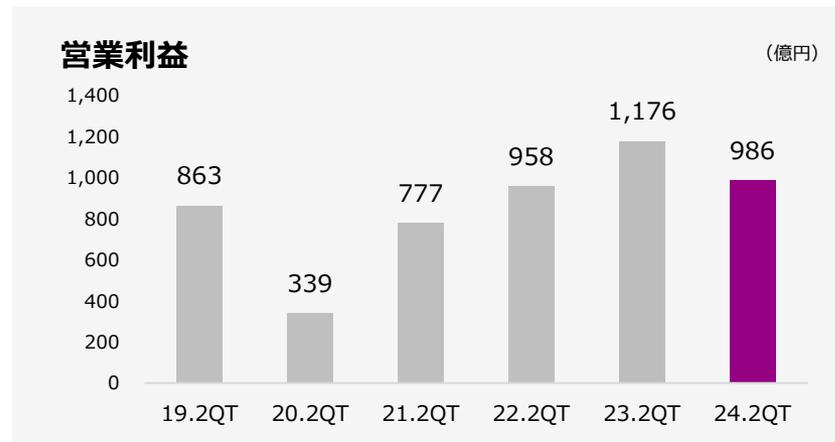
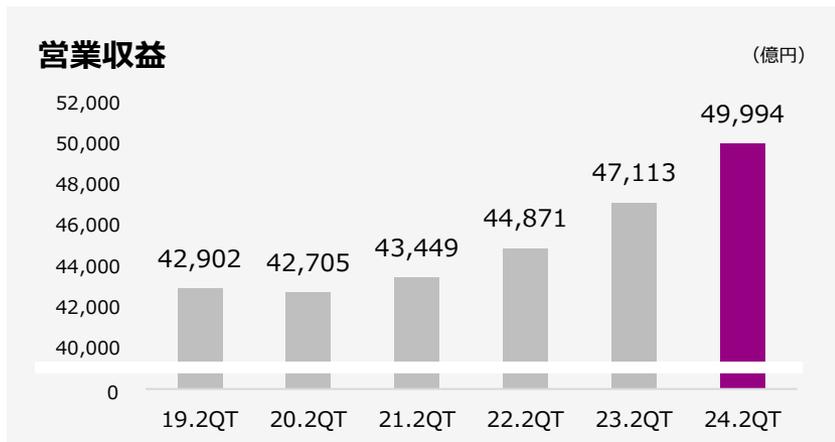
## 連結業績

(億円)

### 実績

	当期実績	前年実績	対前年 中間期増減率	対前年 中間期増減差
営業収益	49,994	47,113	6.1%	+2,881
営業利益	986	1,176	-16.2%	▲190
経常利益	898	1,119	-19.7%	▲220
親会社株主に帰属する 中間純利益	54	233	-76.5%	▲178

- 営業収益は4期連続で過去最高、営業利益は前期の過去最高に次ぐ水準
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、特殊要因があった前々期、前期から大きく減少



- 営業収益：全事業が増収
- 営業利益：国内が回復基調にある総合金融、ディベロッパー、サービス・専門店事業が増益

## セグメント別業績

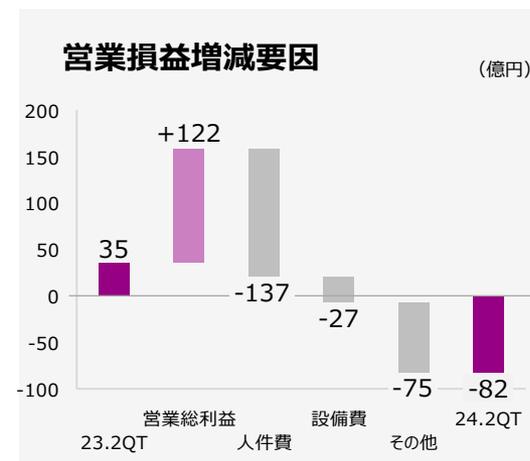
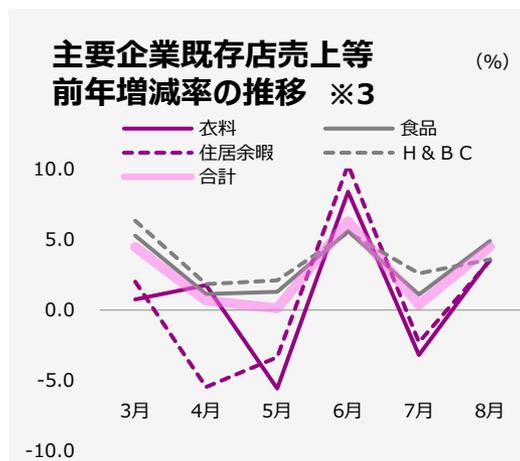
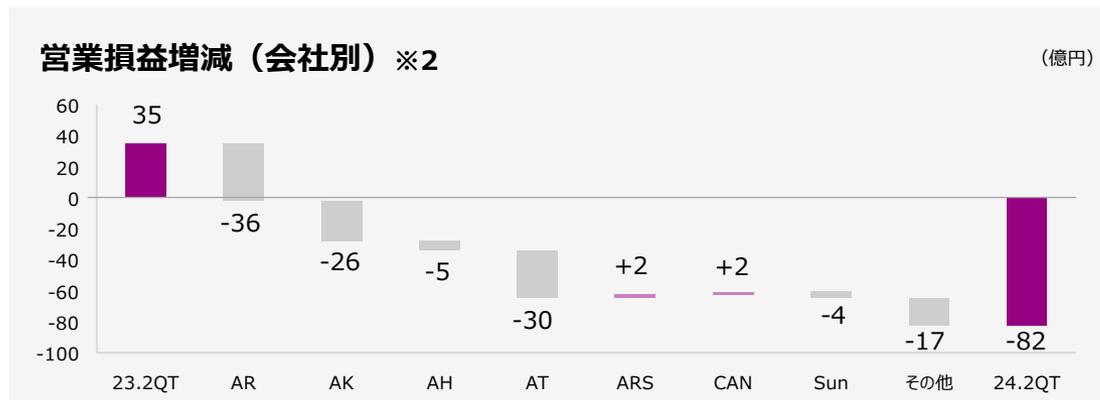
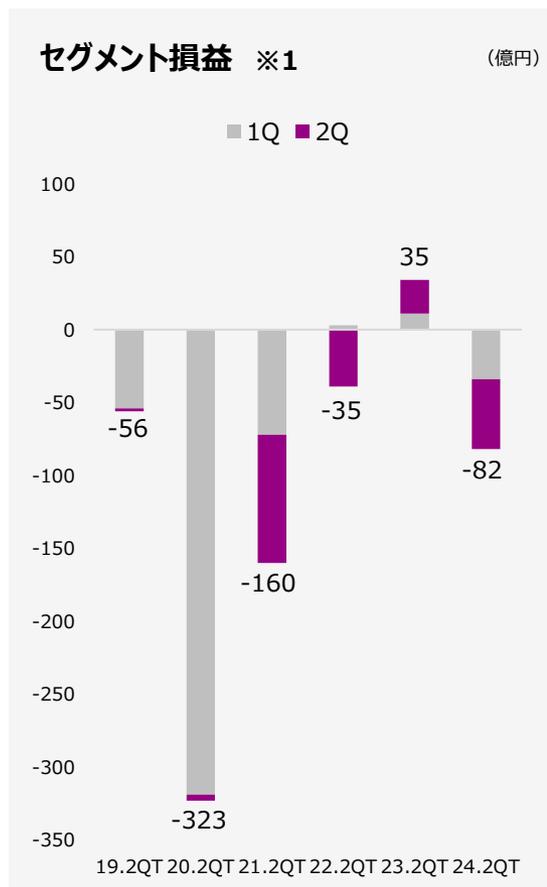
(億円, %)

		営業収益		営業利益	
		実績	対前年中間期 増減率	実績	対前年中間期 増減差
報告 セグ メン ト	GMS事業	17,552	2.6%	-82	-117
	SM事業	14,998	10.8%	103	-61
	DS事業	2,041	1.8%	39	-2
	ヘルス&ウェルネス事業	6,574	7.1%	184	-57
	総合金融事業	2,552	7.4%	274	+58
	ディベロッパー事業	2,467	5.8%	273	+22
	サービス・専門店事業	3,668	1.1%	141	+25
	国際事業	2,738	7.5%	49	-8
	その他	326	17.9%	-42	-4
	調整額	-2,926	-	42	-44
	連結合計	49,994	6.1%	986	-190

## セグメント別実績の概況(中間期)

---

- ・ イオンリテールを加え地域GMS各社、サンデーが減益、イオンリテールストア、キャンドウが増益
- ・ 前期のリベンジ消費の反動減や節約志向が高まる中、価格戦略強化で売上、客数が前年を上回り増収
- ・ 下期はトップバリュの新品・リニューアルや増量企画等で価格の打ち出しを強め、荒利益額の向上を目指す

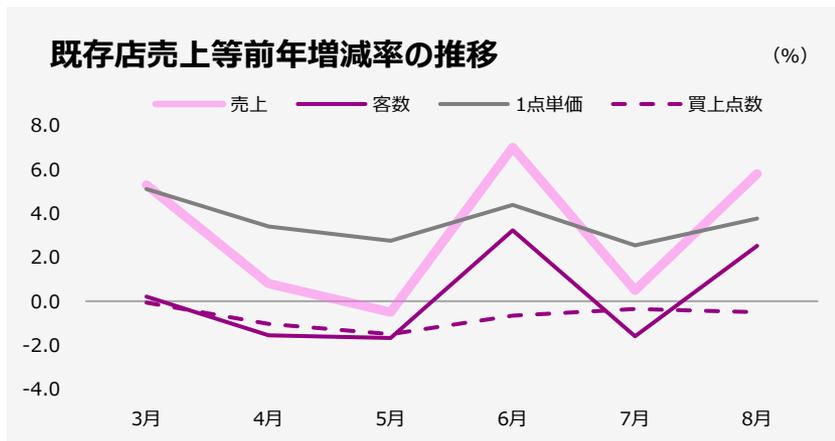
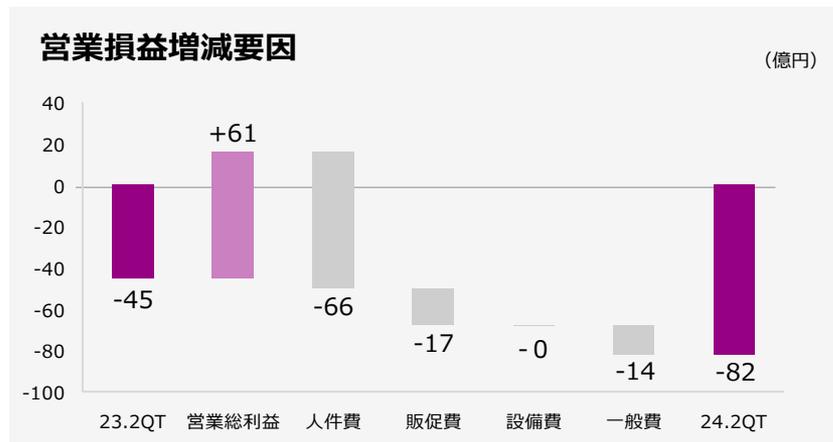
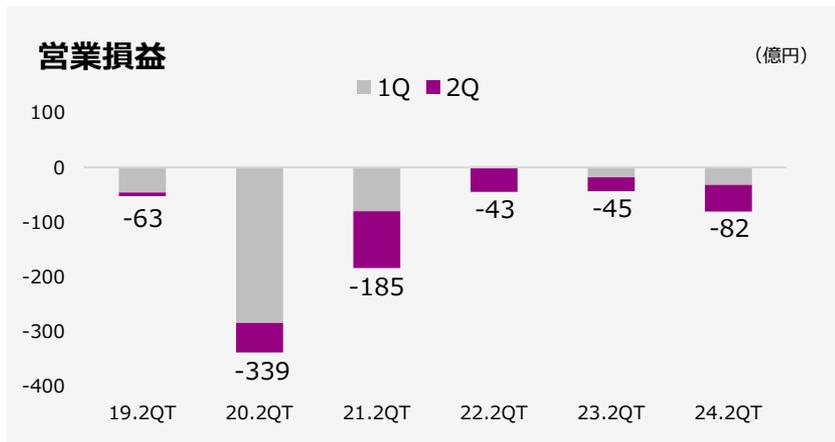


※1 過年度実績はセグメント変更会社を調整

※2 AR:イオンリテール単体、AK:イオン九州連結、AH:イオン北海道単体、AT:イオン東北単体、ARS:イオンリテールストア(旧ダイエー)、CAN:キャンドウ連結(セグメント変更)、Sun:サンデー連結

※3 管理会計 GMS事業主要14社

- 売上・客数は想定通りの伸長も、荒利率に改善の余地
- 下期は非食品のMD改革の加速、食品の時間帯製造計画の改善やトップバリュ・荒利貢献商品の販売強化
- 生産性改善に向けてAIツールの利用を拡大し、売場業務へ人時シフトして営業力を強化



### 中計・構造改革の進捗、コスト上昇影響

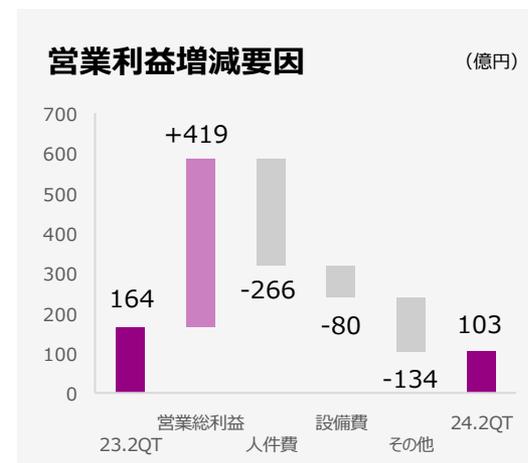
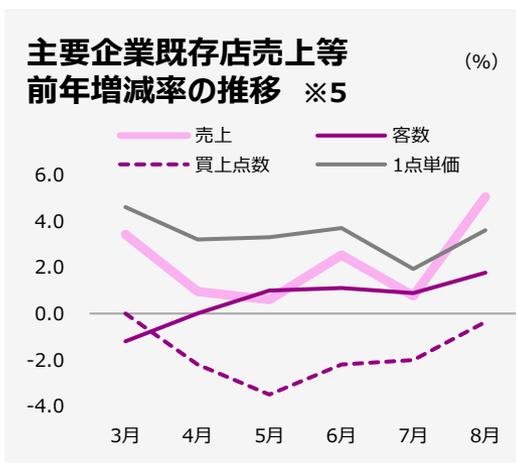
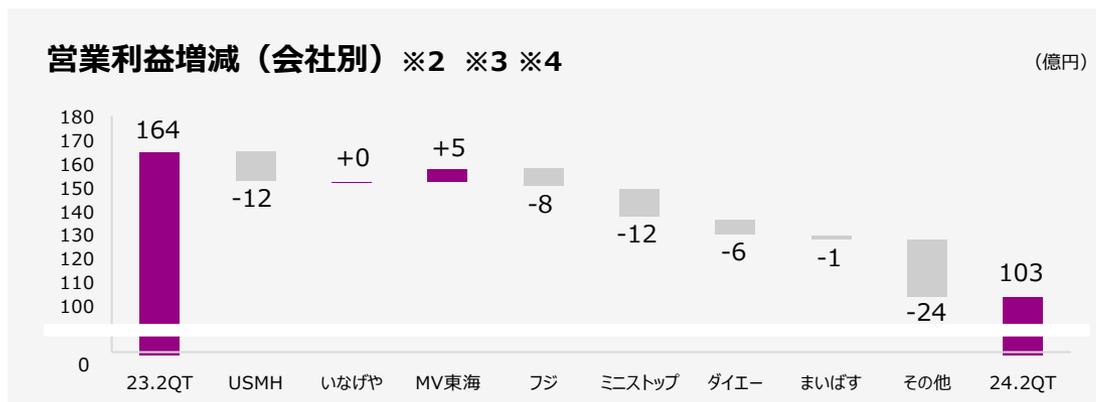
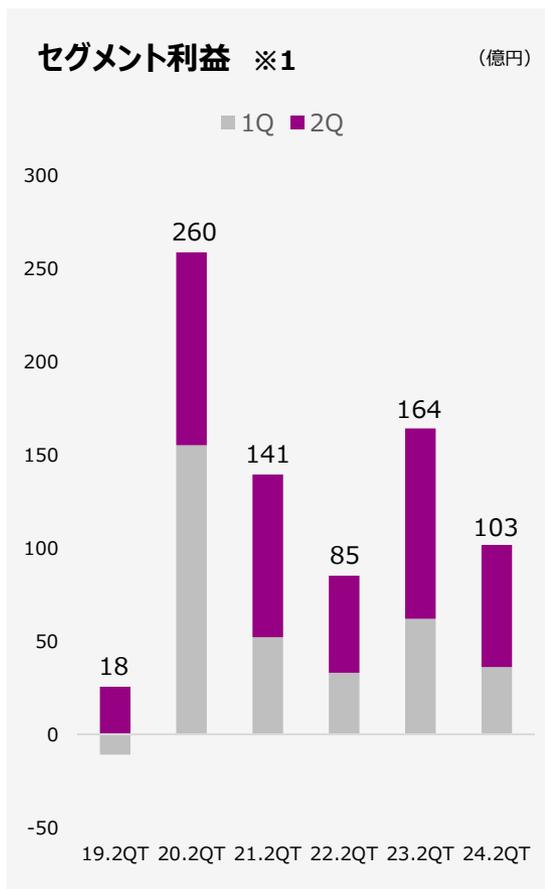
既存店食品客数 前年同期比	<b>101.3%</b>	トップバリュ売上 前年同期比	<b>103.9%</b>
在庫 ※1 前期末増減	<b>1,144億円 ▲84億円</b>	人時生産性 前年同期比	<b>102.7%</b>
テナント収入 前年同期差	<b>+6億円</b>	賃上げ影響 前年同期差 ※3	<b>+52億円</b>
EC事業売上 前年同期比	<b>112.1%</b>	水光熱費 前年同期差	<b>▲15億円</b>
レジゴー	<b>239店舗</b>	AIワーク Maiboard ※4	<b>328店舗</b>
AIオーダー ※2	<b>351店舗</b>	AIカカク デリカ水産畜産 デイリー	<b>350店舗 344店舗</b>

イオンリテール 372店舗 2024年8月末時点

※1 トップバリュコレクションへの移管影響あり

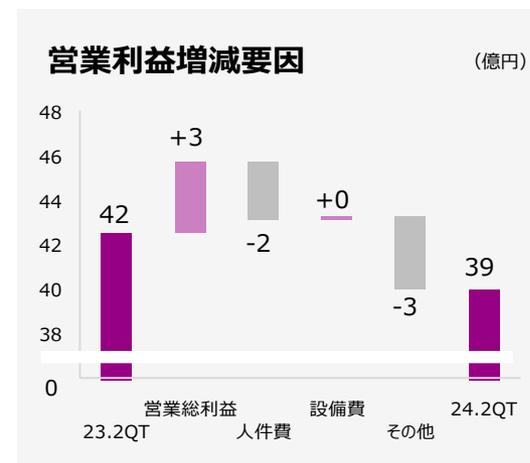
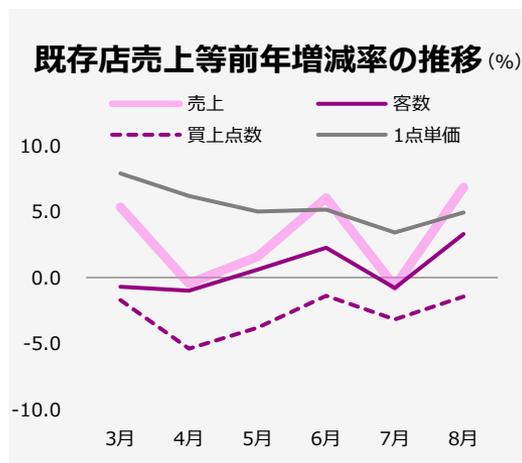
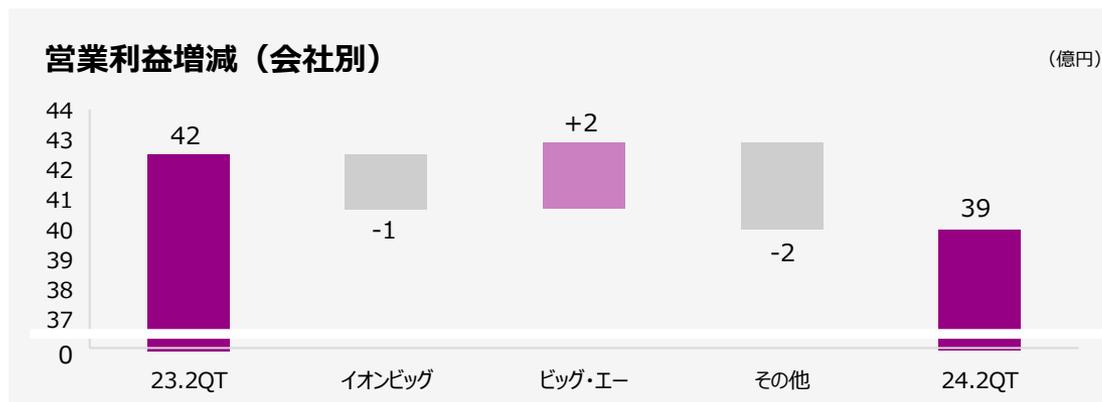
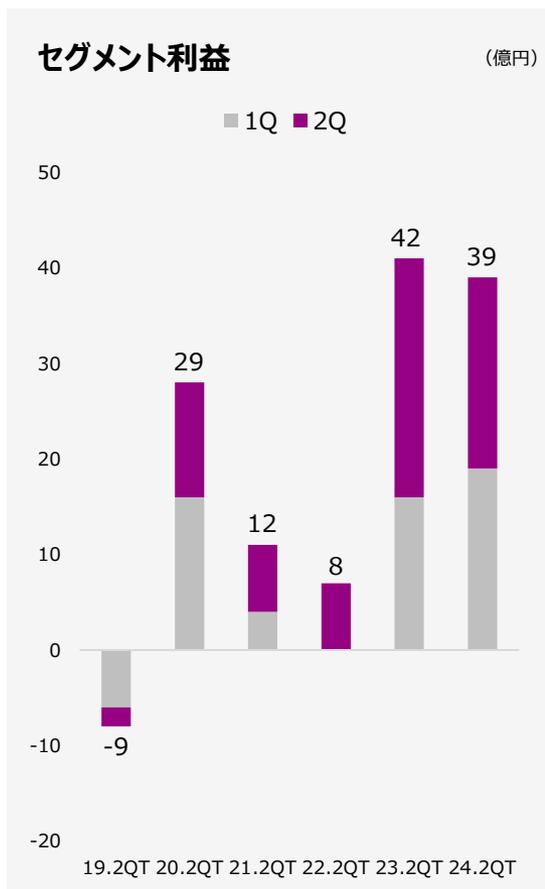
※2 デイリー11部門、デリカ2部門 ※3 最低賃金改定影響を含む ※4 デジタルサイネージで情報共有を行うツール

- 売上・客数は前年実績を上回るも、荒利率改善が販管費の増加額を吸収するにいたらず減益
- MV東海は人時管理が奏功、売上販管費率が前年改善し増益、まいばすけっとは72店舗を新たに開店
- 価格戦略強化で売上増加、PB・地域オリジナル商品拡充と発注の適正化で荒利率の改善を図る

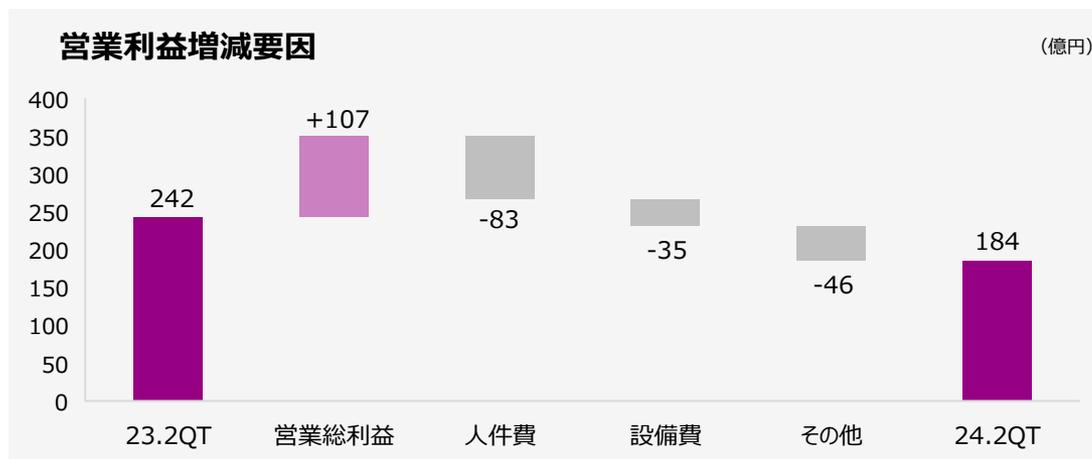
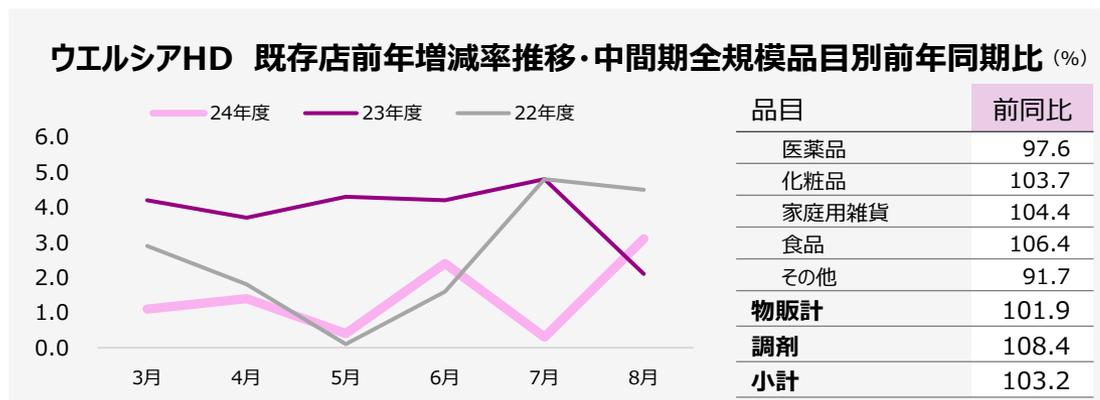
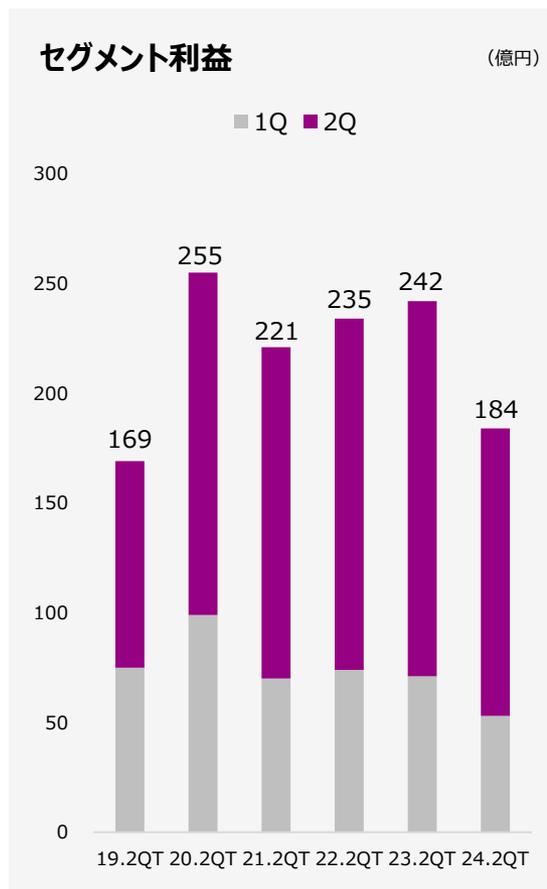


※1 2019、2020年度実績は会社のセグメント移動を調整 ※2 まいばす：まいばすけっと ※3 フジ、U.S.M.H、MV東海、ミニストップは連結業績。いなげや、ダイエー、まいばすけっとは単体業績  
 ※4 いなげやは連結に伴う当四半期の取り込み分(2024年1月~6月)を表示 ※5 SM事業主要13社

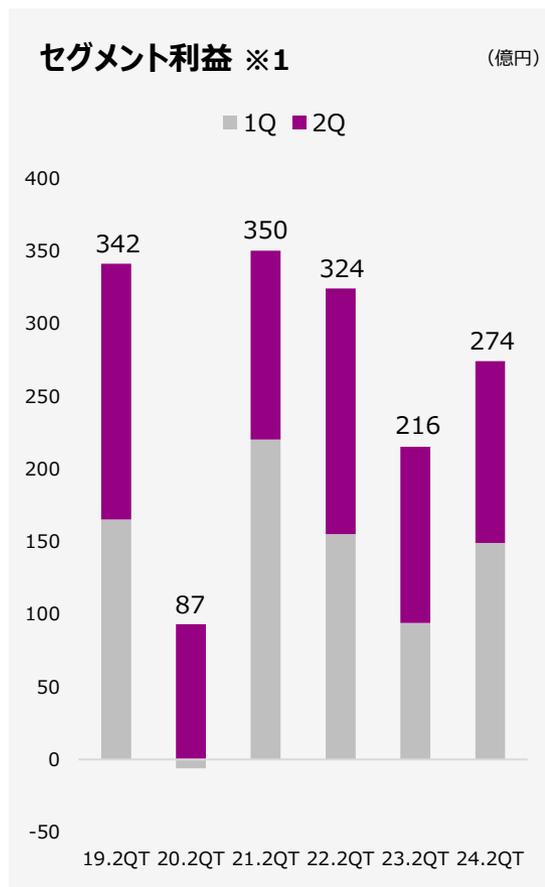
- DS業態専用PB開発・拡販やローコストオペレーションの確立により利益の最大化を図る
- 店舗活性化で品揃え・ゾーニング見直しや屋号統一を進めるビッグ・エーが増収・増益
- イオンビッグはMV南東北との経営統合で得た人材をフォーマット構築や出店推進に投下し成長加速を目指す



- 販促の切り替えによる新規顧客獲得やたばこ販売中止に対する施策に注力するも減益
- ウエルシアは「規模を利益に」との新経営方針の下、地域特性に合わせた柔軟な対応で収益性の向上を図る



- 国内：カード収益及び金融収益の順調な増加、費用効率を重視した施策で販促費を抑制し増益
- アセアン：個人ローンなどの取扱高が拡大、マレーシアはデジタルバンクの開業費用を除くと増益
- 中華圏：予想信用損失の見直しで貸倒関連費用が増加し減益、審査厳格化などの与信精度向上に取り組む



### イオンフィナンシャルサービス エリア別業績 (億円, %)

		国内	前同比	中華圏	前同比	メコン圏	前同比	マレー圏	前同比
営業利益	中間期	94	592%	39	93%	68	99%	67	92%
貸倒関連費用	中間期	123	118%	46	158%	173	105%	131	137%

### 各種取扱高、営業債権残高状況 ※3 (億円, %)

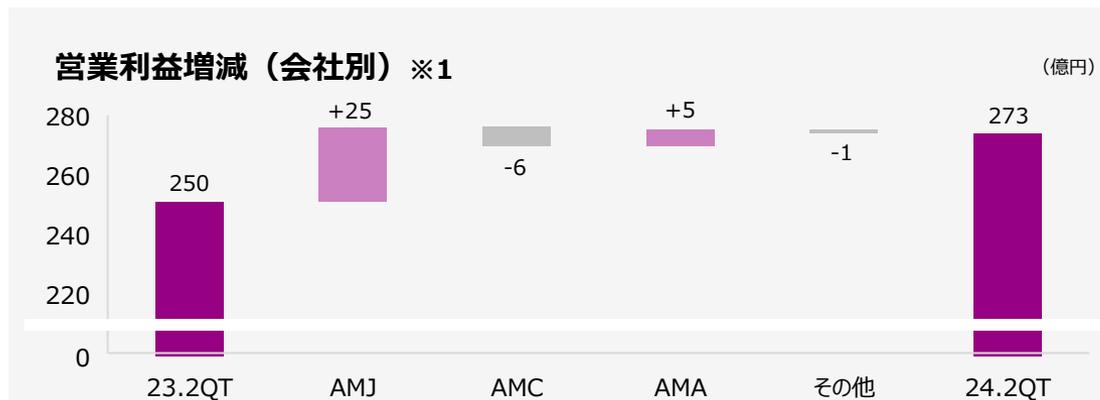
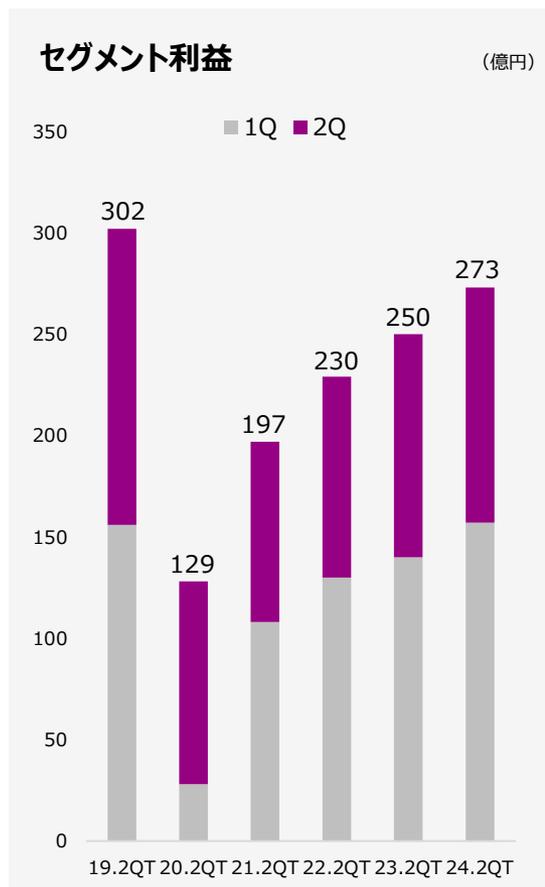
		取扱高	前同比	営業債権残高	期首差
国内	ショッピング	37,054	106%	14,385	+1,344
	キャッシング	1,885	101%	4,215	+92
海外	ショッピング	2,568	124%	1,503	▲9
	キャッシング	949	131%	1,445	▲1

※1 過年度実績はセグメント移動会社を調整

※2 AFS: イオンフィナンシャルサービス、AFS中華圏: 中国、香港、AFSメコン圏: ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、AFSマレー圏: マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド

※3 営業債権残高は、債権流動化前

- 国内：専門店売上回復で歩合賃料収入増加、電気代削減などのコスト改善効果で増収・増益
- 中国：来店客数は二桁伸長し飲食やアミューズメントは好調も、テナント収入が下振れ減益
- アセアン：空床率の改善や行政と連携したイベントに取り組んだインドネシア、ベトナムが増収・増益



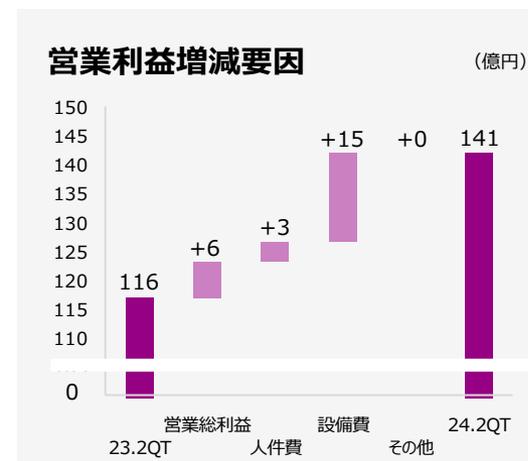
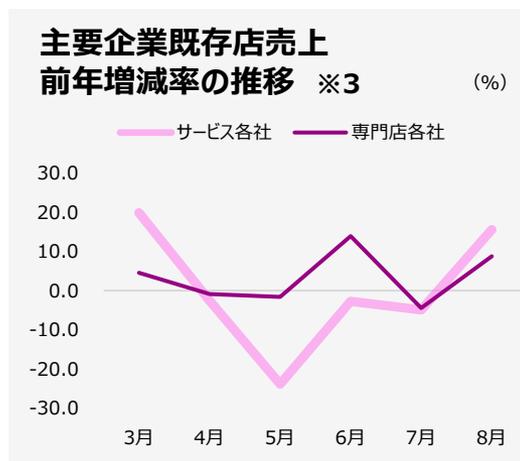
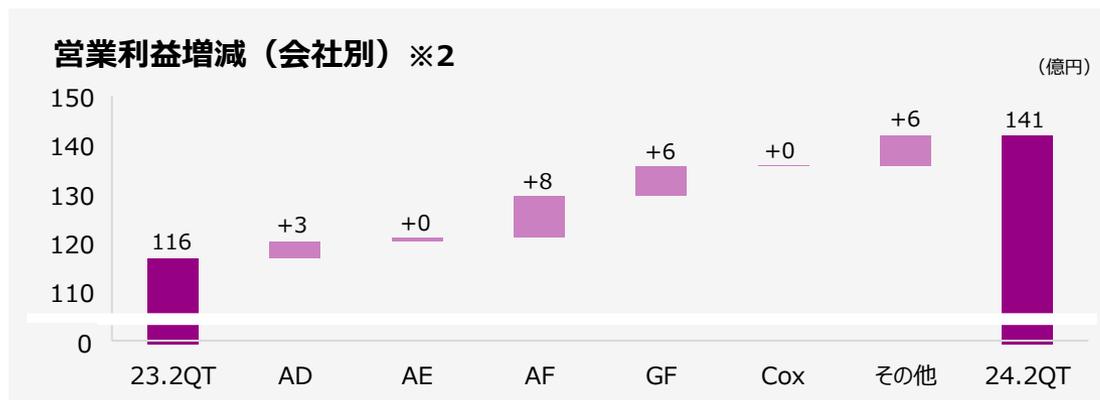
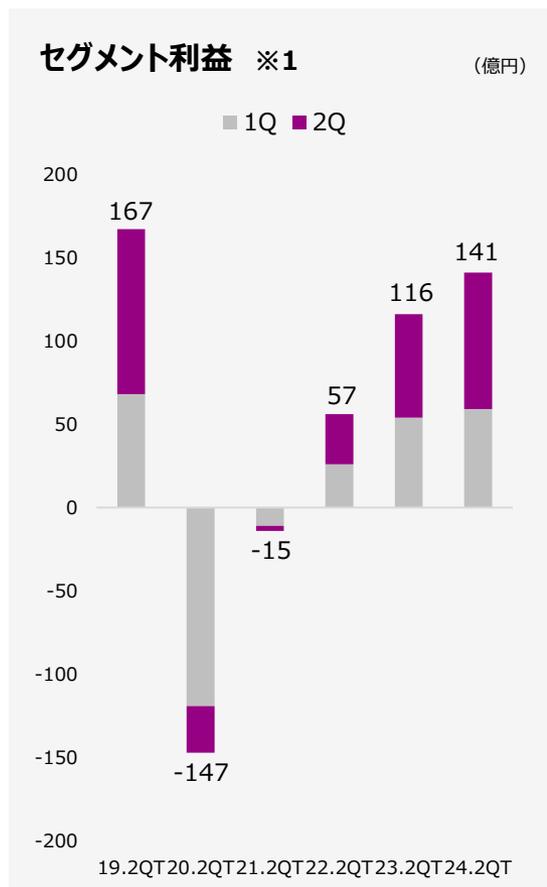
### モール専門店売上

既存モール・エリア別 (%)	前同比	日本国内既存モール・業種別 (%)	前同比
<b>日本</b>	105.9	<b>大型専門店</b>	109.2
<b>中国</b>	103.3	衣料品	102.4
<b>ベトナム</b>	108.3	服飾品	106.9
<b>カンボジア</b>	100.1	雑貨	106.5
<b>インドネシア ※2</b>	108.1	飲食	108.0
		アミューズメント・シネマ	100.0
		サービス	105.7
		<b>中小型専門小計</b>	105.4
		<b>専門店合計</b>	105.9

※1 AMJ:イオンモール国内セグメント, AMC:イオンモール中国セグメント, AMA:イオンモールアセアンセグメント

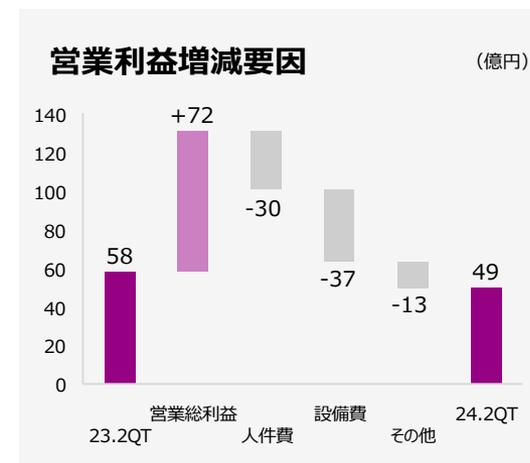
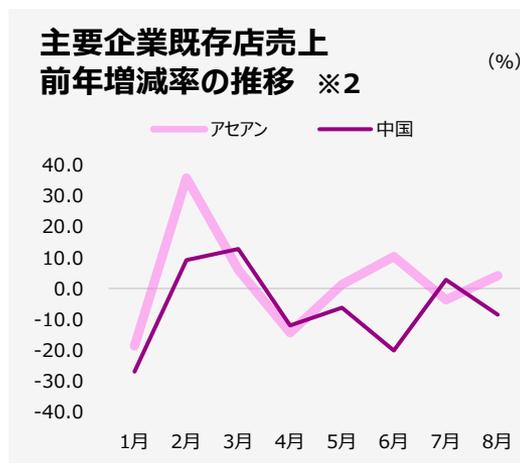
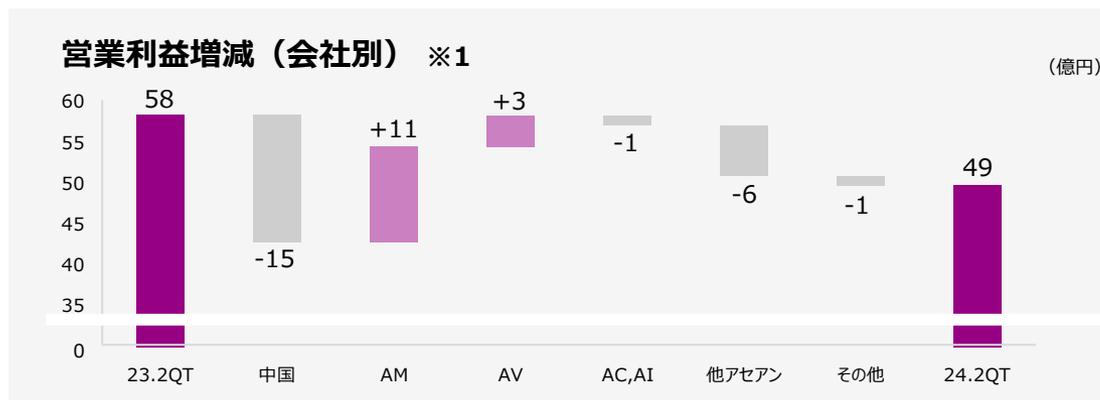
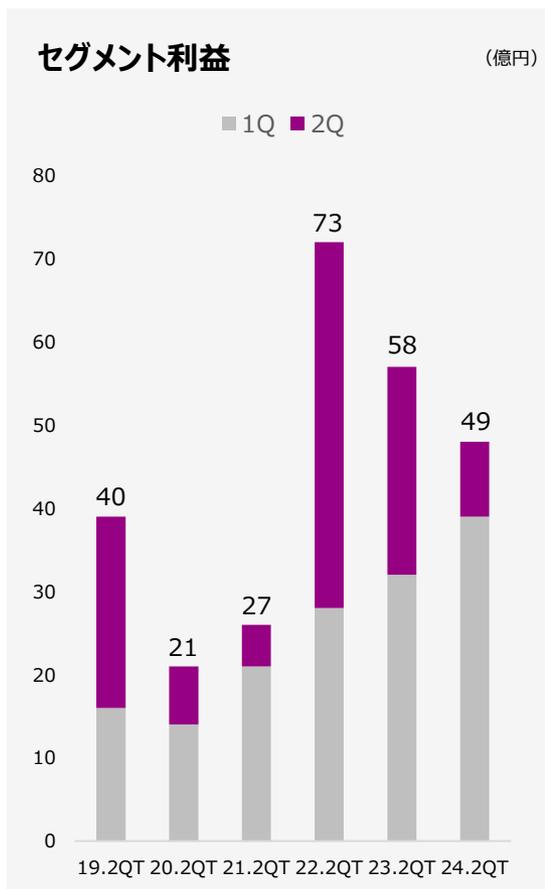
※2 インドネシアは既存モール来店客数

- ・ イオンファンタジー：国内で営業収益・営業利益とも過去最高
- ・ イオンエンターテイメント：ヒット作品不足の中、飲食・物販強化で客単価を改善、販管費コントロールで増益
- ・ イオンデイライト：顧客内シェア拡大や新規受託物件の増加と単価の見直しで増収・増益



※1 19年度実績はカジタク社影響除く、キャンドゥのGMS事業へ移動を調整 ※2 AD:イオンデイライト連結、AE:イオンエンターテイメント単体、AF:イオンファンタジー連結、GF:ジーフット連結、Cox:コックス連結  
 ※3 サービス各社 主要4社、専門店各社 主要7社

- ・ アセアン：イオンマレーシア、イオンベトナムがけん引し、アセアンエリアでは増収・増益
- ・ 中国：香港は北上消費の拡大など域内の消費縮小影響を受け減益も、内陸部は増収・増益



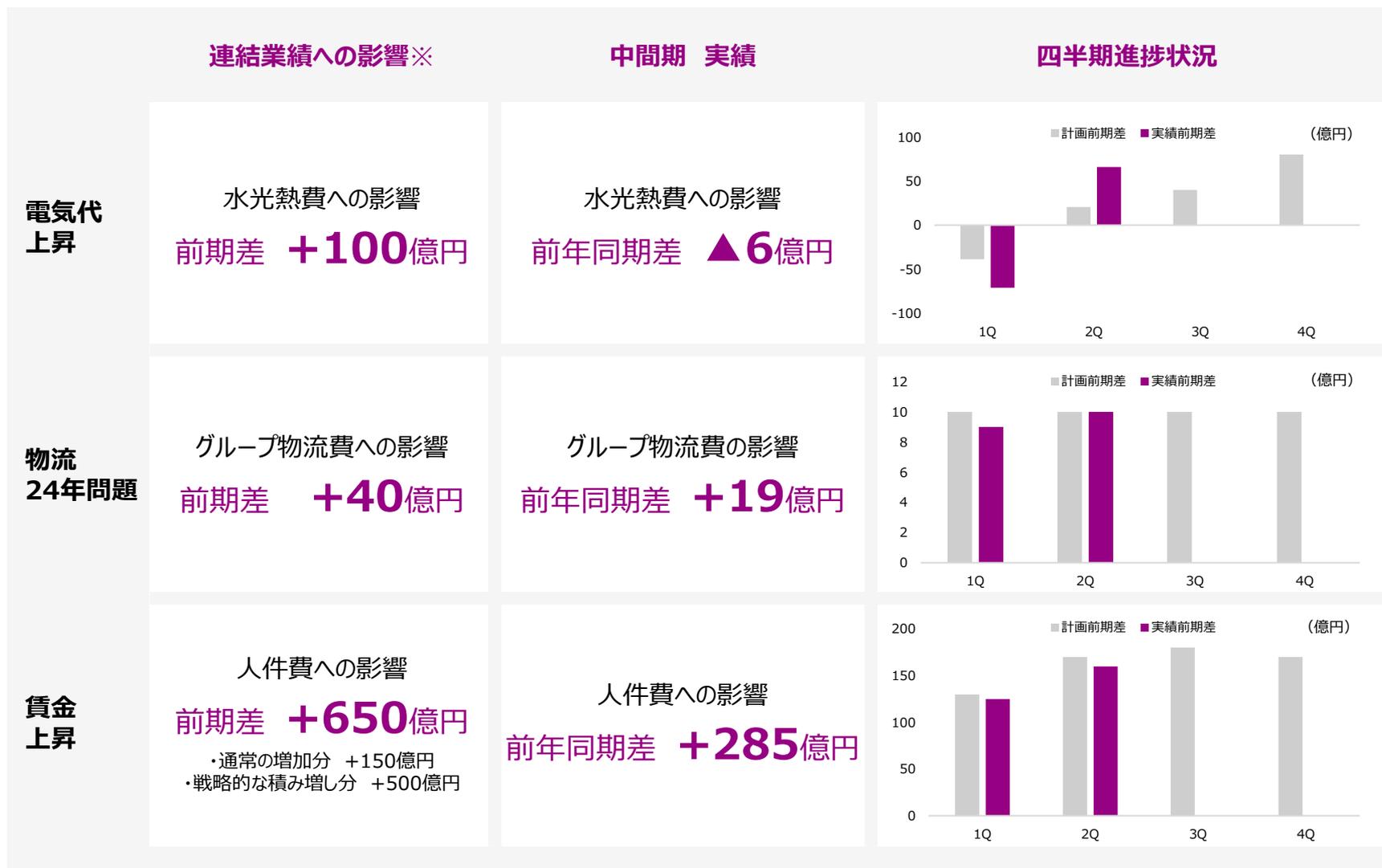
※1 中国:中国事業、AM:イオンマレーシア、AV:イオンベトナム、AC:イオンカンボジア、AI:イオンインドネシア、他アセアン:他のアセアン4社

※2 アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム、中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北

# 2024年度の見通し

---

# 24年度連結業績への影響想定と進捗状況



※業績予想では、影響額と対策による効果額を見込んでいます

- 期初予想に変更なし。中間期は段階利益が想定線から下振れたが、下期で巻き返し

(億円)

	2024年度			2023年度	
	予想	前期比	前期差	中間期実績	実績
営業収益	100,000	+4.7%	+4,464	49,994	95,535
営業利益	2,700	+7.6%	+191	986	2,508
経常利益	2,600	+9.5%	+225	898	2,374
親会社株主に帰属する 当期純利益	460	+2.9%	+13	54	446

AEON

# 2024年8月末 連結貸借対照表



資産の部（主要項目のみ）				資産の部（主要項目のみ）			
	(億円)				(億円)		
	2024/2	2024/8	前期末差		2024/2	2024/8	前期末差
現預金	11,655	13,862	+2,207	支払手形・買掛金	10,731	13,583	+2,851
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	19,574	19,230	△344	有利子負債 (金融子会社除く)	24,027	25,809	1,781
たな卸資産	6,252	6,276	+24	有利子負債 (金融子会社)	13,129	12,446	△682
営業貸付金・ 銀行業における貸出金	32,228	35,887	+3,658	銀行業における預金	45,332	48,586	+3,254
有形固定資産	34,149	35,625	+1,475	負債合計 (金融子会社除く)	108,536 (47,790)	116,936 (53,656)	+8,400 (+5,865)
投資その他資産	11,057	11,351	+294	株主資本	9,133	9,054	△79
資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	137,987 (69,978)	+8,578 (+5,972)	純資産合計 (金融子会社除く)	20,872 (16,215)	21,050 (16,321)	+178 (+106)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	137,987 (69,978)	+8,578 (+5,972)

- 上場50周年記念配当実施
- 年間配当は、一株当たり40円。普通配当36円、記念配当4円

	2023年度	2024年度 (予想)
第2四半期	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円 記念配当 4円

(億円, %)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	対前年中間期 増減率	実績	対前年中間期 増減
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエーGMS	478	-5.1%	-14	+2
SM	ダイエー	1,553	3.4%	-18	-6

## 予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。